

STEP(Short Term English Programs)を受講して

札幌校 基礎学習開発専攻英語グループ 2年

篠原麻衣

今回私はアメリカのワシントン大学のSTEP(Short Term English Program : 短期英語プログラム)を受講しました。札幌校に入学した時のガイダンスでこのプログラムを知り、実際に受講した先輩方からとても良かったという感想を聞いて興味をもったので受講を決めました。

プログラム初日はSTEPのオープニングセレモニーとクラス分けのテストがありました。セレモニーではSTEPやワシントン大学の説明を受け、その後クラス分けのリスニングテストがその場で一斉に行われました。テストはリスニングだけでなくスピーキングもあり、先生1人に対して受講者2人という配分でした。スピーキングのテストは簡単に自己紹介をして、先生からの質問に何個か答えるといった内容であり堅苦しいテストではなかったのが印象的でした。その日のうちにクラス分けが決定し、1日目終了しました。私のクラスメイトは1人の台湾人を除くと全員日本人だったため緊張がほぐれすぐに打ち解けることが出来ました。



↑ワシントン大学のキャンパス内から見える Mt. Rainier

2日目からは平日の朝9:40~12:30まで授業を受けました。クラスによって授業内容が異なっていますが私のクラスは札幌校でいうとコミュニケーションスキルや外国語コミュニケーションのような授業内容で、勿論授業は全て英語で行われます。教室内でシアトルが舞台となった映画(めぐり逢えたら: *Sleepless in Seattle*)を見て映画の中に出てくる単語や熟語を学ぶほか、教科書を使って文法を勉強したりしました。今までオールイングリッシュの授業は先ほど述べた授業でも受けてきましたが、文法の説明などは英語で受けたことが無かったのでとても勉強になりました。また、私のクラスは学校外で授業を行う事も多々ありました。毎週金曜日にCapitol HillやInternational Districtなどのシアトルの有名なエリアへ行き、街の人に好きな店などをインタビューするという授業もありました。ただインタビューをして終わりなのではなく、インタビューした内容を月曜の授業で1~2分程度のプレゼンをしました。他にもユニオン湾という大学に面した湾でカヌーをした日もありました。

プログラムは大学の授業のように評価が付けられます。私のクラスはテストではなく、グループごと

に行う 15~20 分程度の大きなプレゼンテーションで評価が付けられました。シアトル市内のエリア一つについてグループで調査し、歴史やインタビューをした内容などを 1 人 5 分のペースでプレゼンをしていきました。私のグループはワシントン大学も含めた **University District** という大きな学生街についてプレゼンをすることになり、街の人にワシントン大学の中でどの施設や場所が好きかをインタビューしたほか、大学に数多くある歴史的な図書館や建物について調べ、まとめました。日本語でも 5 分間のプレゼンなんて行ったことは無かったのに英語で 5 分間プレゼンを行わなければならなかったので、原稿を考える時はとても大変でした。ですがこれも日本ではなかなか体験出来ないことなので良い経験になったと思います。

これまで **STEP** のプログラムについて述べてきましたが、次にワシントン大学のことや海外での生活について述べたいと思います。名門校で知られるワシントン大学のシアトルキャンパスはとても広大で、建物一つ一つが立派で驚きました。先ほど挙げた **University District** には学生向けの安いレストランやカフェ、バー、本屋、そして小さな映画館もあって学生は勿論、地元の人や観光客でいつも賑わっていました。**STEP** の授業は 12:30 までなので、昼食には **University District** のレストランや、キャンパス内の **HUB** という学生施設にある安いレストランなどを利用しました。また、キャンパス内の少し外れには **University Village** というショッピングモールもあり、寿司屋などのレストランや家具屋、**GAP** や **H&M** をはじめダウンタウンにもあるようなアパレルショップも数多くあり、大学のキャンパス内だけでも十分に楽しむことができました。シアトル市内はほとんどの観光名所がコンパクトにまとまっているのと、バスなどの公共交通機関がとても整っていることもあって、3 週間のステイでガイドブックに載っている主な観光名所はほぼ制覇出来ました。それほど散策にはぴったりの都市でした。また、私はシアトル市内の奥の方に位置している **Magnolia Village** という村にステイしていて、毎日の通学の時にはダウンタウンまで行きバスを乗り継いでいたため、札幌で言うと札幌駅周辺や大通のような、賑やかなダウンタウンに毎日行くことが出来て楽しかったです。シアトルはアメリカ合衆国の州のなかでも治安が良いことで知られているので、日中の街中などは落ち着いている印象を受けました。しかし時にはバスを待っている間に物を売り付けてくる人がいたほか、バスの中でしつこく話しかけてきた人もいて、治安が良いからと安心していただけるとはとても驚きました。いくら治安が良いと言っても外国なので、街中を歩くときは注意して歩くべきだと実感しました。そのほかのシアトル市内の印象としては、日本よりも **Wi-Fi** 環境が整っていたということです。デパートやスターバックスなどのカフェには無料の **Wi-Fi** が必ずと言っていいほどあったので、日本からポータブル **Wi-Fi** を持ち込まなくてもなんとか連絡を取り合えることが出来ました。また、ワシントン大学でも大学専用の **Wi-Fi** が整っていました。学校初日のオリエンテーションで設定方法を教わるので大学内でも快適に使用できました。



↑スペースニードルという展望台から見たシアトルのダウンタウン

プログラムを受けて変化したことは、以前よりも英語を聞き取れるようになったことと、自信を持って英語を話せるようになったことです。ホストファミリーをはじめ、大学の先生や店員やバスの運転手などとの会話は勿論英語なので毎日注意して会話を聞かなければなりません。最初はアメリカ人が話す英語のスピードに慣れなかったですが、日が経つにつれ聞き取れるようになりました。また、当然のことながら現地では英語しか通じないのですが、私の英語力は低いいためホストファミリーとの日常会話や台湾人のクラスメイトとの会話ですら毎日苦戦しながら英語を使用していました。今まで生きてきて3週間もの間毎日英語を使うという機会は無かったので、凄く大変でしたがその後自分の中で英語を話すことに少し自信がついたような気がします。私は外国人もよく訪れる札幌市内のカフェでアルバイトをしており、時には英語で接客しなければならない場面もあるのですが、シアトルでSTEPのプログラムを受けた後は、外国人のお客さんに一度も聞き直したりせずにスムーズに会話ができるようになりました。また、大学の授業で夏休みの思い出を英語で説明したときに、大学の先生にも以前より話せるようになったねと言ってもらえました。日頃からもっと英語を勉強しておくべきだった、ちゃんと英語で会話できるのかなど、出発前は不安な気持ちでいっぱいでしたが、今は本当に参加して良かったとしか思っていないです。楽しかったこと、少し怖いと思ったこと、感動したこと、すべて含めてシアトルでの3週間のステイは私にとって宝物です。今回、北海道教育大学からは私を含め参加者は3名だけでしたが、もっと多くの方々に行って欲しいと思いました。英語や海外での生活に少しでも興味があるのであれば、長い大学の夏休みを利用して是非参加してみたいと思います。